

2022年 運営報告書



2023年1月1日

2022年もサポーターの皆様のあたたかいご支援を頂きまして
誠にありがとうございました。

TCP
TIBETAN CHILDREN'S PROJECT

2022 年の出来事

1月 新型オミクロン株とオンラインの授業再開



ネパールでは 2022 年 1 月～3 月頃まで新型コロナウイルスはオミクロン株での感染拡大に見舞われ、再び厳しい行動規制となり授業はオンラインに切り替わりました。

4 月以降はコロナ感染者数は減少傾向となり、3 年ぶりにあらゆる種類の行動制限は撤廃されました。現在はコロナは収束し世界は正常に戻ったかのように見えます。

TCP の子供たちも新型オミクロン株に感染しましたが

どの子も重症化することなくすぐに回復することができました。

3月 チベット正月、クンサンとヌモがチベット医学校入寮

チベット正月を終えいよいよクンサンとヌモは、ボン教のメディカルカレッジに入寮しました。TCP の施設より徒歩 5 分の距離ですが、入寮時の二人は喜びと不安で感極まり泣きじやくっていた様子が印象的でした。



日常の二人は早朝 6 時半から 10 時半までカレッジ、11 時半から医学校へ戻り医学経典やディベート、生薬製造の実習などもあり、毎日忙しそうです。土曜日は休日なので毎週クンデハウスに来てはお手伝いをしてくれています。二人は経典の暗唱が一番大変だと言っていますが、忍耐強く頑張り屋さんの二人はきっと素晴らしいチベット医になることでしょう。

5月 サンゲ・ドルマ、バヌバクタスクールへ入学

サンゲはまだ 4 歳なのでナムギャルスクールには通えない為、クンガが通うバヌバクタスクールへ一年通うことになりました。来年からは皆と同じナムギャルスクールに通学します。

入居してからこんなに成長し、5 月から学校にも通えるようになりました(^^♪



←2021 年の秋にクンデハウスへ

まだ 3 歳で幼いサンゲ



6月 10年生4人がバヌバクスクール卒業・カレッジ入学



チュインは3月よりボン寺のチベット医学校へ通うため、ペマは夕方から武道館で剣道を習い続けるため、クンデハウスから近く便利なカマナインターナショナルカレッジに入学しました。チュインはビジネス学科のホテルマネージメント、ペマはビジネス学科のコンピューターを専攻しています。



タシはアルバイト先の近くの学校を選びました。 NCSSインターナショナルカレッジのビジネス科のホテルマネージメントを専攻、学校が終わってからは毎日夕方5時まで日本食レストランでアルバイト。職場ではホールがメインですが、お客様が少ない時にはキッチンに入り調理の経験もさせて頂いているようです。



チュズムはクンデハウスからも徒歩で通えるバナスタリ・インターナショナルカレッジに入学。彼女は植物や生物学に興味があるとのことでサイエンス学科を専攻、勉強量が多いため朝9時半～3時半まで授業があります。毎日の宿題量も多く驚いていますが、参考書や辞書を片手にコツコツと手を抜くことなく頑張っています。

6月 日本事務局のスタッフ交代

2019年よりTCP日本事務局を支えてくださった児玉さんが事務局を離れることになりました。2020年と2021年にはTCPの活動が彩の国埼玉国際交流基金に2年連続採択され、クンデハウスの施設を整え快適な生活が出来るようになったのも児玉さんの努力の賜物です。またコロナ禍の厳しいロックダウンの時期から毎週欠かさずにチビッ子たちのために土曜日午後の1時間、ZOOMを通して日本の絵本の朗読や日本語の授業をして下さいました。とても言葉では語りつくせない3年間でした。先代の石川に引き続き心からの敬意と感謝を申し上げます。ありがとうございました。新しい事務局メンバーとして、経理に森川克己が着任させて頂きます。引き続き渡部英里共々、今後とも何卒宜しくお願ひ致します。

7月 タシのアルバイト

タシはもう何年も前から日本食に興味を持ち、将来は日本で日本食に限らず世界の食べ物を試食して多岐にわたって学びたいと希望していました。幸運なことにこの度カトマンズ市内ファイブスターホテル内にある最も高級な日本食レストランでアルバイトさせて頂くことになりました。アルバイト先ではさまざまな社会経験を積ませて頂き本当に有難いことです。タシの表情にも変化が現れ少し大人びてきたように見えます。

8月 チミとタチェンの薬草採取研修



8月には薬草採取研修のためムスタン～アッパームスタンへ行ってきました。食料やテント持参での参加、荷物はさぞかし重かったことでしょう。カトマンズを出発して3週間後に連絡があり、今年は雨量が多く土石流で橋は流され道は閉鎖、これ以上は危険と判断され予定を変更しカトマンズへ早々に戻って来ました。二人の話では初めての薬草採取研修は疲れることはなくとても有意義で楽しかったそうです。なによりヒマラヤ山脈の真っ只中に身を置くと心地よく気が引き締まり、研修ではどの薬草がどのような環境で探せるのか詳細を教えて貰えたと言っていました。日焼けした二人の顔は精悍で成長を感じ取れました。



←おにぎりを食べるチミ



ムスタンの入口→

8月 クンサン日本語能力試験N3合格



昨年12月に7人が日本語能力試験N4に合格し、8月にはクンサンひとりがN3にチャレンジして見事合格いたしました。

学校の勉強と両立させながら独学でよく頑張りました。

9月 教育係の尼さん退職



2018年の春から2022年9月まで子供たちの教育スタッフとして住込みで働いてくれたチベット・ラサ出身の尼さんは、以前より持病の膝や腰痛を患っていましたが、8月に体調が悪化し検査したところ高血圧（毎朝 200mmHg 以上）で医師の判断で仕事はドクターストップがかかりました。4年間アチャツェリンと一緒に子供たちを愛情いっぱい育てて下さり、またチベット語、経典や歴史など多くを学びました。家族の一員である尼さんの存在がないことはとても残念で仕方ありません、きっと尼さんも後ろ髪を引かれる思いだったと思います。尼さんの高血圧が緩和し落ち着いたらまた元気な姿を見せてくれるでしょう、その日を楽しみに待ちたいと思います。

9月 チベット人老人ホーム慰問

スワヤンブナート地区にあるチベット人老人施設には現在高齢者 36 名と施設スタッフ 8 名が共同生活をしています。2020 年以降コロナ禍で十分な治療が受けられずに亡くなった高齢者を多く出し、また運営状況も悪化していると伺い、今回 TCP はアムチと共に慰問を兼ねて診療とチベット薬ひと月分の処方と提供を無償で行うことにしました。クンデハウスのチベット医学生 4 人にも手伝ってもらい社会貢献の経験をさせて頂きました。当日の受診者数は 89 名、施設入居者以外のご近所の高齢者や僧侶も対象となりました。



診察中のアムチ



卒業生ダワが血圧チェック係



10月 パルピンの僧院と行場へ慰問



カトマンズから南へ 17 km にあるパルピンは、昔からチベット人の聖地として知られ今もたくさんのチベット寺院や行場が点在しています。僧侶や行者らは遠くカトマンズまで来ることが殆どなくまたチベット医院も少ないため、今回は彼らの要望に応え TCP はチベット医学生らと、診療とひと月分の薬の提供を無償で行いました。当日の受診者は 83 名、

95%は僧尼僧・行者が対象になりました。



↑尼僧院内の診察会場



↑行場にはアムチも出入り禁止



行場の庭で記念写真→

☆ 今年2回の慰問を通して子供たちが気が付いたこと

2022年1月現在、世界の亡命チベット人は14万人、そのうち10万人がインドで1万6千人はネパールで暮らしています。2008年のチベット騒乱以降ネパールとチベットの国境は更に越境が厳しくなり亡命するチベット人は激減、生活の安定や豊かさを求めインド・ネパールに住む若いチベット人は、第三国へ亡命する数が増えるばかり。一方では同じ理由から命がけで亡命したのにも関わらず、また危険を顧みずに故郷・中国チベットへ帰る者も後を絶ちません。ネパールも同様に若いチベット人は減少し、現在残っているのは多くは老人と僧尼僧が多いように思います。

クンデハウスの医学生たちは今回の慰問を体験し、ネパールに住むチベット人たちは帰る国もなく、頼りになる親戚や家族もない、家族があっても子供たちは諸外国にあり高齢者は取り残されている現状を見ました。そしてお互い助け合うことが最重要であることに気が付いたこと、自分たちがこれから彼らのために何ができるのかを話し合いたいと語ってくれました。日常の生活では関わることが少ないチベット人らの現実に触れ接したこと、チベット人としてのアイデンティティを守りながらネパールでどう生きていくか、自分たちに置き換える良いきっかけになったのではないでしょうか。

12月 日本語能力試験受験・N3とN2



今回は殆どみんな教本とYouTubeを頼って独学で頑張りました！ 子供たちが学校の宿題を終わらせてから夜な夜なコツコツと努力する姿は感動的でした。試験結果発表は2023年1月末です。

みんなの努力が実るといいね！

世界遺産ルンビニへ



仏教の四大聖地のひとつルンビニはお釈迦さまの生誕地で、カトマンズから南へ 280km、インド国境の町に近く乗り合いバスで 1 時間程でインドに着く距離にあります。今年は大きな子供たち 10 名とサポートーさんと一緒にルンビニへ巡礼の旅をしてきました。

お釈迦様の生誕地の周辺には広大な聖地公園があり、世界各国の国名を名乗る寺院が林立しています。とても歩いては周れないでの私たちオートリキシャを使い充実した楽しい時間を過ごしました。



その他のご報告

・初めてのクラウドファンディング

先ずは皆様からのご支援のおかげで、目標金額 60 万円を早々に達成することができました。心より感謝申し上げます。今回初めてクラウドファンディングに申し込んだ経緯ですが、子供たちの今後の教育費とイシの大学進学費に活用させて頂きたく、この度イシの里親さんが発案者としてご協力を頂いた次第です。



概要 新着情報 3 応援コメント 35

成立

祈りを風に乗せて～コロナ禍に苦しむネパールの児童養護施設を守りたい

株式会社ブルーバニーカンパニー 高峰 由美

支援額
600,000 円

目標金額 200,000円



★イシが日本へ留学し 3 年の月日が経ちました。里親さんのおかげでイシは様々な経験をさせて頂きながら勉学にも力を入れ充実した生活を送っています。この度はクラウドファンディングで進学費の一部を頂き今は安心して猛勉強中。進学先が決まりましたらまたご報告させて頂きます。ありがとうございます。

・ Manish&Haruka 教育基金

この度は以前にネパールでお世話になった加藤の友人春香さんよりご遺贈頂きました。春香さんは2018年までの数年間ネパール人のご主人とカトマンズに在住し、土曜日には日本人補習授業校の先生をされ個人としても大変お世話になりました。残念なことに2022年春に病に倒れ帰らぬ人となり、ご主人によるとご遺言に「大好きなチベットのために使って欲しい」と記されていたそうです。私たちは春香さんとご主人の大切な財産とその思いを引き継ぎ、忘れないためにもこの大切なご遺贈を子供たちの教育基金として独自に設定させて頂くとに致しました。



・ TCPの卒業生たちについて

卒業生ダワについてはTCPのブログにてご報告（9月15日・ダワの近況）をさせて頂きましたが、2018年冬に卒業して以来のパサンが先日のTCPのクリスマスパーティーに来てくれたのでご報告させて頂きます。



4年ぶりに見せてくれたパサンの笑顔、私たちはどれだけこの日を待ち望んでいたことでしょうか。現在パサンはボダナートにある家具屋に住み込みで自活しながらカレッジに通っているようです。詳しく話を聞くと驚いたことに生活面の多くは以前TCPスタッフ、アチャイシがサポートをしてくれているとのことです。パサンは今もたくさん的人に支えられ本当に幸せだと思います。パーティーの帰り際にパサンから里親さんへ今までのお礼のメッセージをしたいと頼まれビデオメッセージを送らせて頂きました。パサンもダワ同様に長年慈しみ育てて下さった里親さんへの感謝の念はいつも彼女の胸にあったようです。



今回のクリスマスパーティーにはパサンとダワが参加してくれました。まるで4年前に時間がタイムスリップしたようで子供たちも大喜びでした。

いつかツェデンやカンドもこうしてケンデハウスへ戻っててくれる日を楽しみに待っています。

・NPO法人化にむけて

昨年11月に、NPO法人化の準備を進めることをメールでお伝えしました。その後も手続を継続中です。予想以上に難航し審査も厳しく長期戦になりそうですが、達成できるように推進していきますので何卒暖かく見守って頂きたいと思います。

・2023年の活動予定

5年前に腎臓病を患ったチュイン、西洋の薬や検査を何度も繰り返しましたが完治するごとに1年が過ぎたころチベット名医に受診し薬の服用を始めると一週間で血尿や辛かった倦怠感から少しづつ開放されて行きました。その時チュインはチベット医学の奥深さに目覚め将来はチベット医を目指すと決めたそうです。当初の予定ではボン教の医学校を目指していましたが今年は新年度生募集がないことから、チミやタチエンと同じリウチェ寺のチベット医学校へ3月下旬に入学することに決まりました。TCPから5人目の医学生になるチュイン、目標に向かって頑張ってください。

現在ナムギャルスクールに通うデチェンは4月に卒業し、9年生からはクンガと同じバヌバクタスクールに通う予定です。※ナムギャルスクールは8年生まで

9月に退職された教育係の尼さんに次ぐ新規チベット人スタッフの補充。尼さんのように愛情深く信頼できる人材を探すことは難しく時間がかかると思いますが様々なルートから募集をかける予定です。

・2022年を振り返り

世界経済が減速し物価高騰が続く中ですが、私たちがこうして安定した運営が出来ているのも皆さまのおかげさまです。2022年12月末現在のサポーター会員は、里親サポーター19名、月間サポーター40名、年間サポーター12名、多くのサポーター様方のご支援に、改めて感謝申し上げます。また様々な形でこのプロジェクトを支えて下さっている皆さまにもこの場をお借りして改めて御礼申し上げます。私たちは今後ともたくさんの喜びと感動を皆さんと分かち合い継続していきたいと考えております。何卒よろしくお願ひ申し上げます。

